

創世記44 創世記30章25節～31章16節

「ヤコブとラバンの契約」

イントロ：

1. 寄留の地で生活するヤコブは、11人の息子を得た。

- (1) レアの4人の息子たち
- (2) ビルハの2人の息子たち
- (3) ジルパの2人の息子たち
- (4) レアの2人の息子たち
- (5) ラケルの息子

2. きょうの箇所

- (1) ヤコブとラバンの契約
- (2) ラバンの欺き
- (3) ヤコブの復讐
- (4) 決断の時

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 神は摂理を通して私たちに公平に扱っておられる。
- (2) それゆえ、人は復讐してはならない。

このメッセージは、神の公平さと、復讐の愚かさを学ぼうとするものである。

I. ヤコブとラバンの契約

1. ヤコブの要請

- (1) ヤコブには11人の息子が生まれた。
 - (2) 彼は、花嫁料のために、14年間働いた。ラバンの冷酷さが見られる。
 - (3) ラバンに騙されたが、彼はラバンを騙さなかった。
 - (4) 彼が所有した財産は、2人の妻、2人の女奴隷、11人の息子だけであった。
 - (5) これまでは、住居と食物だけのために働いてきたが、大家族の将来が心配。
 - (6) そこで彼は、カナンの地への帰還を考えた。
- ①「私の故郷の地」とは、カナンの地である。
- (7) ラバンは、ヤコブの働きぶりをよく知っていた。

「私の妻たちや子どもたちを私に与えて行かせてください。私は彼らのためにあなたに仕えてきたのです。あなたに仕えた私の働きはよくご存じです」

2. ラバンの逆提案

「もし、お前さえ良ければ、もっというてほしいのだが。実は占いで、わたしはお前のお陰で、主から祝福をいただいていることが分かったのだ」(新共同訳)

(1) 占いは「ナホッシュ(ニハシュティ)」

(2) 蛇は「ナハッシュ」

(3) 「占い」という言葉は、「蛇」と同じ語幹を持つ。

①直訳すると、蛇を通して占いをするという意味。

②ラバンはオカルト的占いをしていた。

(4) 彼は、ヤコブの神、主(ヤハウエ)が祝福を与えていてくれることを知った。

①「お前のお陰で」とは、ヤコブとの関係のゆえに、という意味である。

②ラバンはこの14年間、アブラハム契約の祝福の側面を体験していた。

③(創12:3)

「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう」

(5) ラバンはこの祝福を失いたくない。

(6) そこで、ヤコブを引き留めるために、報酬を支払うことを提案する。

3. ヤコブの答え

(1) ラバンは、ヤコブが忠実に働いたことを知っている。

(2) その結果、ラバンの家畜が爆発的に増加した。

(3) 「それは、私の行く先で【主】があなたを祝福されたからです」

①ラバンは、アブラハム契約の祝福の受け手となった。

②彼は偶像礼拝者であったが、ヤコブとの関係のゆえに、祝福を受けた。

(4) ヤコブは、自分と家族のために経済的安定を求めた。

4. ラバンの質問

(1) 報酬はどれくらい欲しいか。

5. ヤコブの答え

(1) 控え目な要求をしている。

①前払いをしなくてもよい。

②ひとつの条件を呑んでくれるなら、ラバンのもとに留まり続ける。

(2) 3種類の家畜

「私はきょう、あなたの群れをみな見回しましょう。その中から、ぶち毛とまだら毛のもの全部、羊の中では黒毛のもの全部、やぎの中ではまだら毛とぶち毛のものを、取り出してください。そしてそれらを私の報酬としてください」

①ぶち毛とまだら毛のもの全部(総論的言葉)

*ぶち毛：黒の中に白点がある。

*まだら毛：白の中に黒点がある。

②黒毛の羊全部

*中東の羊は、普通は白である。黒は珍しい。

③まだら毛とぶち毛のやぎ

*中東のやぎは、普通は黒か濃い茶色。まだら毛とぶち毛は珍しい。

(3) 以上の3種類は、数が少ない。

(4) しかも、彼はそれらの家畜から生まれてくる子羊や子やぎだけを要求した。

(5) もっと大胆な要求を出す権利があったが、最低限のところからスタートした。

(6) そして、自分の正直さを示す方法まで提示した。

「後になってあなたが、私の報酬を見に来られたとき、私の正しさがあなたに証明されますように。やぎの中に、ぶち毛やまだら毛でないものや、羊の中で、黒毛でないものがあれば、それはみな、私が盗んだものとなるのです」

6. ラバンの同意

(1) ラバンは、自分に有利な条件なので、すぐに同意した。

「そうか。あなたの言うとおりになればいいな」(新改訳)

「よろしい。お前の言うとおりにしよう」(新共同訳)

II. ラバンの欺き

1. ラバンは汚い手を使った。

「ラバンはその日、しま毛とまだら毛のある雄やぎと、ぶち毛とまだら毛の雌やぎ、いずれも身に白いところのあるもの、それに、羊の真っ黒のものを取り出して、自分の息子たちの手に渡した」

(1) ラバンには、息子たちが誕生していた。これは、ヤコブの到着以降の出来事。

(2) 彼が選別して自分の息子たちに渡したのは、ヤコブの元手になる家畜たち。

(3) ヤコブはその家畜たちが生み出すものを、将来の賃金としようとしていた。

(4) ヤコブは、ゼロから始めなければならなくなった。

(5) ラバンがヤコブを欺くのは、これが2度目である。

2. ラバンは、ヤコブの群れが増える可能性をなくした。

「そして、自分とヤコブとの間に三日の道のりの距離をおいた。ヤコブはラバンの残りの群れを飼っていた」

(1) ラバンの息子たちの群れと、ヤコブの群れとが交配する可能性はゼロ。

(2) いくら経っても、ヤコブが受け取る群れは誕生しないということである。

(3) ラバンは、ヤコブの財産が増えないようにして、長く彼を留めようとした。

3. 誰が誰を欺いているか、注意する必要がある。

(1) ヤコブは非常に控え目な提案をしたが、ラバンは策を弄した。

(2) しかし、ヤコブは忠実に働いた。

(3) 勧善懲悪のドラマならば、仕事人の出番である。

Ⅲ. ヤコブの復讐

1. 第1の策

(1) 家畜にさかりがつく場所で、彼は奇妙なことをし始めた。

「ヤコブは、ポプラや、アーモンドや、すずかけの木の若枝を取り、その白い筋の皮をはいで、その若枝の白いところをむき出しにし、その皮をはいだ枝を、群れが水を飲みに来る水ため、すなわち水ぶねの中に、群れに差し向かいに置いた」

(2) その結果

「こうして、群れは枝の前でさかりがついて、しま毛のもの、ぶち毛のもの、まだら毛のものを産んだ」

①親の毛色とは異なった子どもが誕生した。

②これは、契約ではヤコブの群れとなる。

2. 第2の策

(1) 普通の群れと、自分の所有となる群れとを分けた。

(2) 次に、両者を対面させた。

(3) 普通の群れは「しま毛のもの、ぶち毛のもの、まだら毛のもの」を産んだ。

3. 第3の策

(1) 強いものの群れがさかりがついた時には、木の枝を水ぶねの中に置いた。

(2) 弱いものの群れの場合は、そうしなかった。

- (3) 強い群れから、「しま毛のもの、ぶち毛のもの、まだら毛のもの」が誕生した。
- (4) こうして、ラバンの群れは弱いものとなっていった。

4. 復讐の結果

「それで、この人は大いに富み、多くの群れと、男女の奴隷、およびらくだと、ろばとを持つようになった」

- (1) 7年間の間に、急速に裕福になった。
- (2) ヤコブが用いた手法は、当時の迷信である。
- ①さかりの時（子を宿した時）に視覚に刺激を与えると、胎児に影響が現れる。
- ②ヤコブはそれを信じ、それを行っている。

IV. 決断の時

1. ラバンの息子たちとの関係が悪化。

- (1) 古代のヌジ文書によれば、息子がいない場合は、義理の息子が相続人となる。
- (2) ラバンには息子たちが生まれた。彼らは、ラバンの相続人である。
- (3) それゆえ、自分たちの財産が減っていくのを悲しんでいる。
「ヤコブはわれわれの父の物をみな取った。父の物でこのすべての富をものにしたのだ」
- (4) これは嘘である。事実上、この逆である。

2. ラバンとの関係の悪化

- (1) ヌジ文書では、義理の息子にも少しは相続させる。
- (2) ラバンは、これに反している。

3. 神からの語りかけ

「あなたが生まれた、あなたの先祖の国に帰りなさい。わたしはあなたとともにいる」

- (1) 2回目の顕現
- (2) 20年間の間隔があいている。

4. 2人の妻との会話

- (1) 野に呼び寄せた。誰にも聞かれないで、ゆっくり相談ができる。
- (2) ヤコブは、ことの次第を妻たちに告げた。
- (3) ヤコブは、裕福になった真の原因を明かす。
- (4) 夢の中の光景

「群れにかかっている雄やぎは、しま毛のもの、ぶち毛のもの、また、まだら毛のものであつ

た」

5. 神からの語りかけ

(1) 御使いは言われた。「ヤコブよ」

(2) 「目を上げて見よ。群れにかかっている雄やぎはみな、しま毛のもの、ぶち毛のもの、まだら毛のものである」

(3) 「ラバンがあなたにしてきたことはみな、わたしが見た」

①木の若枝を利用する必要はなかった。神がしておられた。

②アブラハム契約の呪いの側面。同じ種類の呪い。

(4) 「わたしはベテルの神。あなたはそこで、石の柱に油をそそぎ、わたしに誓願を立てたのだ。さあ、立って、この土地を出て、あなたの生まれた国に帰りなさい」

(5) 「御使い」、あるいは、「神の御使い」とは、目に見える形で現れた神である。

(6) 「ベテルの神」。ヤコブの霊的原点に引き戻す。生まれた国に帰れ。

6. 妻たちの応答

(1) 父への不満がある。

(2) 自分たちは商品扱いされた。

(3) 花嫁料はもらえなかった。

(4) 彼女たちも、父が与えなかったものを、神が与えてくださったと理解した。

結論

1. 神は摂理を通して私たちが公平に扱っておられる。

(1) ヤコブが群れを増やすために用いた手法

①木の若枝を利用した繁殖法

②自分の群れとラバンの群れを対面させ、交配させた。

③強い群だけに木の若枝を利用した。

(2) しかし、神はすべてを見ておられ、つじつまがあうようにされた。

2. それゆえ、人は復讐してはならない。

ロマ 12:19 「愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。『復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする』、と主は言われる」